

令和5年度 青少年防災・減災未来フォーラム 2023

1 目的

東日本大震災から12年が経ち、その後も自然災害の激甚化が進む状況の中で、防災・減災の意識を高める教育が大切であり、特に次世代を担う若者の防災意識と社会参画意識の育成が必要である。これからの担い手である青少年に対話と実践を通し「助けられる」から「助ける」への意識を育む。

また、今年度から高校の教育課程で地理総合が必修科目になったことを受けて、方法論としてのアクティブラーニングがさらに必要となってくると思われる。今回のワークショップはこのような背景をふまえて実践するものであり、各学校における防災教育や教科の授業にも生かせるように工夫されている。

2 主催 山形県青年の家

3 対象 県内の高校生、大学・短大・専門学校生、ボランティアサークル・団体のメンバーや指導者等 50名程度（応募多数の場合は調整あり）

4 会場 山形県青年の家（天童市小路一丁目7-8）

5 期日 令和5年9月16日（土）

6 講師 宮城教育大学 311 いのちを守る教育研修機構協力研究員 東北大学非常勤講師 元宮城県石巻西高校校長 齋藤幸男 氏

7 内容

(1) 講義 テーマ：「災間を生きる君たちへ～希望は絶望のど真ん中に生まれる～」 40分

(2) ワークショップ①「避難所運営の実際と教訓」 120分

(3) ワークショップ②「災害発生後の課題と対応」 90分

(4) 若者からのメッセージ（提言）

「災間を生きる者として～命と向き合い、いのちをつなぐ防災～」 30分

8 日程

9:00 受付開始（ロビー）

9:30 オープニング

9:40 講義：「災間を生きる君たちへ～希望は絶望のど真ん中に生まれる～」

10:20 ワークショップ①：「避難所運営の実際と教訓」

12:20 昼食休憩

13:30 ワークショップ②：「災害発生後の課題と対応」

15:00 若者からのメッセージ：「災間を生きる者として～命と向き合い、いのちをつなぐ防災～」

15:30 振り返り、アンケート記入

15:45 クロージング

16:00 解散

9 参加費 490円（昼食代、保険料）

10 持ち物 筆記用具、内履き、スマートフォン（含：イヤホン）

※ 青年の家のwi-fiを利用し、動画視聴の場面があります。

11 申込 チラシのQRコードより申し込んでください。〔締切8/31（木）〕

12 その他

(1) 当日撮影する写真は、HPに掲載したり記録用資料として活用させていただいたりすることがあります。承諾できない場合はお申し出ください。

(2) 9月11日（月）午後5時以降のキャンセルは、昼食代・保険料を実費で負担していただきます。

〔連絡先〕 山形県青年の家
担当：研修課長 齋藤 裕輝
TEL：023-654-4545
FAX：023-652-2007
E-mail：saitoyuki3@pref.yamagata.jp

青少年防災・減災未来フォーラム2023

日時 令和5年9月16日(土) 9:30~16:00

場所 山形県青年の家

対象 県内の高校生、大学生、ボランティアサークル・団体のメンバーや指導者等 50名程度

内容

講義・ワークショップ

避難所運営の実際と教訓 / 災害発生後の課題と対応
災害ボランティアの意味 / 自助・共助・公助の限界
/ 心のケアとPTG (悲しみと向き合う力)

【講師】 311いのちを守る教育研修機構協力研究員

東北大学非常勤講師・元宮城県石巻西高校校長

齋藤 幸男 氏

若者からのメッセージ (提言)

「災間を生きる者として～命と向き合い、いのちをつなぐ防災～」

申込フォーム



申込

上記QRコードより、**8月31日(木)**まで申し込んでください。

参加料

490円(昼食代、保険料)

持ち物

筆記用具、内履き
スマートフォン(含イヤホン)



<講師の御紹介>

齋藤 幸男 氏

2011年3月11日の東日本大震災発生時に石巻西高校の教頭として避難所運営にあたる。当時の石巻西高校は正式な指定避難所ではなかったが、人道的な立場から教職員だけで44日間の避難所運営を行った。体育館は遺体仮安置所・検視所となり、校舎を開放して地域住民の避難生活を支援した。さらに、11名の生徒が震災の犠牲になるなかで、教職員は生徒に寄り添い続け、生徒はともに支え合いながら学校の教育活動を再開していった。2012年に同校の校長になり、2015年に退職。全国各地を講演や教員研修などで飛び回り、震災の教訓を語り継ぐ活動を通して「いのちと向き合う教育」の大切さを訴えている。